

インプラントの長期安定を求めて

2026年6月28日(日) 9:50~15:00

場所: ステーションコンファレンス東京

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12 サビアタワー

参加費 会員・会員スタッフ: 無料
非会員: 3,000 円

司会: 遠藤 富夫先生

開会のご挨拶 9:50~10:00

市民公開講座 10:00~11:30 座長: 近藤昌嗣先生・藤森啓先生

リスク評価に基づくう蝕の制御と管理の実践

特別講演 12:30~15:00 座長: 老川秀紀先生・浜口潤也先生

インプラント治療の良好な長期予後のために



麻生 幸男先生

1996年: 明海大学歯学部歯学科 卒業
1999年: 麻生歯科クリニック 開院
2014年: 日本歯科大学附属病院 総合診療科 2 臨床講師
2017年: 明海大学 臨床講師
所属・資格

- 歯学博士(昭和大学歯科矯正学)
- 公益社団法人 日本歯科先端技術研究所 所属
- 公益社団法人 日本口腔インプラント学会 専門医
- 静岡県口腔インプラント研究会 会長
- 一般社団法人ジャパンオーラルヘルス学会 認定医



白鳥 清人先生

1985年: 東京歯科大学卒業
1988年: 白鳥歯科医院 開業
2003年: 白鳥歯科インプラントセンター開業
2004年: 東京歯科大学大学院歯学研究科(病理学)修了
主な役職

- 白鳥歯科インプラントセンター院長
- 九州大学臨床教授
- 日本口腔インプラント学会専門医

歯科医療が長期的に良好な予後を獲得するためには、適切な診断と治療のテクニックも重要であるのはもちろんだが、患者一人ひとりにおけるリスク因子を適切に評価し、それに基づく予防的介入を行うこと、および患者の主体的な予防行動を惹起することは非常に大きな意味を持つ。これは天然歯のみならず、インプラント治療の補綴物においても同様である。

天然歯におけるう蝕は多因子性疾患であり、その発症には古典的なカリオロジーにおいて原因と言われていた宿主・細菌・食事といった因子以外にも、患者を取り巻く社会環境要因や日常的な保健行動要因などが複雑に関与する。これらのリスク因子を体系的に評価する手法の一つとして、CAMBRA (Caries Management by Risk Assessment) の概念を紹介し、臨床における実践的活用方法について解説する。

一方、インプラント治療においても、周囲炎などによるインプラント喪失のリスクは患者因子、口腔衛生状態、全身疾患、喫煙、咬合因子などにより左右される。近年提唱されている IDRA (Implant Disease Risk Assessment) は、これらのリスクを包括的に評価し、個別化したメンテナンス戦略を構築するための有用なツールとなり得るが、臨床における普及度や予測精度といった点においてまだ課題は多い。インプラントにおけるリスク評価の現在地と、今後の展望について検討する。

さらに、天然歯とインプラントいずれにおいても重要な事項として挙げられるのが、リスク評価に基づく患者教育と行動変容支援の必要性である。プロフェッショナルケアだけで疾患の発症を完全に防ぐのは困難であり、適切な日常的セルフケアを確立することこそが長期的安定の鍵となってくるからである。ここでは動機づけ面接法や予防医療の行動科学的アプローチなどについて考察するとともに、歯科医療従事者がリスクを可視化し、患者自身が主体的に口腔健康管理に関与できるようになるためのコミュニケーション戦略を提示する。本講演を通じて、リスク評価と行動変容を統合した予防管理型歯科医療の実践が、天然歯およびインプラントの長期予後向上に寄与することを示したい。

インプラント治療は、歯科医療の中で非常に高い予知性をもつ治療法として定着しているが、真の成功は初期の治療や安定にとどまらず、長期にわたり機能的・生物学的・審美的な安定性を維持できるかどうかにある。そのためには、術前から術後に至るまで一貫した治療戦略と管理体制が不可欠である。本講演では、インプラント治療における良好な長期予後の実現に向けて、臨床現場で重要となる複数の要素を体系的に整理する。まず第一に、症例の選択と術前診査の徹底が基盤となる。局所および全身状態、骨・軟組織の条件、口腔衛生状態、患者の治療協力度などを包括的に評価することで、リスクを最小化し、計画の精度を高めることができる。

次に、埋入ポジションの適正化と骨・軟組織のマネジメントが、長期的な骨レベルや歯肉ラインの安定に直結する。ガイドサージェリーやシミュレーションソフトの活用により、補綴主導型の精密な埋入が可能となり、長期的な審美性と清掃性を確保しやすくなる。特に審美領域においては、骨造成や軟組織移植などの外科的介入が、安定した輪郭形成に寄与する。

補綴設計においては、インプラントからの補綴物の立ち上がり角度と形態の配慮を含め、咬合力の分散、清掃性、長期的な維持管理を考慮した形態が求められる。補綴の精度や形態は、周囲組織への負担やブラークコントロールのしやすさに直結し、トラブルの予防に大きく影響する。また、咬合の安定性は、骨吸収やスクリュー緩みなどの機械的トラブルを未然に防ぐためにも重要な要素である。

術後管理とメンテナンスの継続性も、長期予後における欠かせない要素である。インプラント周囲炎の予防には、患者自身のセルフケアに加え、定期的な専門的メンテナンスが不可欠である。メンテナンス体制の整備と、患者への教育を含めた継続的なフォローアップが、長期的な安定性を支える基盤となる。本講演では、以上の視点を踏まえたうえで、多様な臨床症例を通じて、長期予後を見据えたインプラント治療の在り方を具体的に示す。審美領域や多数歯欠損、即時埋入・即時負荷など、さまざまな臨床シナリオにおける基本的な考え方と実践法を整理し、日々の臨床に活かせるエッセンスをお伝えしたい。

最終的に、長期安定性を獲得するための鍵は「基本を確実に積み重ねること」に尽きる。術式や材料が進化を遂げる中であっても、丁寧な診査、精密な外科処置、補綴と外科の連携、そして患者との協働関係の構築が、インプラント治療の未来を支える重要な基盤である。本講演を通じて、長期的な成功を見据えた実践的アプローチを再確認し、日常臨床の質向上に繋がれば幸いである。

閉会のご挨拶 15:00~

意見交換会 15:30~

お問い合わせ

(公社) 日本歯科先端技術研究所

TEL:03-5476-2004 FAX:03-5476-2006

e-mail:nissenken@dental.email.ne.jp

(公社) 日本歯科先端技術研究所 6月28日学術講演会 参加申込方法

下記必要事項をご記入の上、2026年6月24日(水)までにQRコードまたは日先研ホームページ (<https://www.nissenken.org/>) より申込みをお願いします。

必要記入事項 ①氏名 ②所属医療機関、診療科 ③所属医療機関住所 ④所属医療機関電話番号 ⑤e-mail ⑥連絡先電話番号 ⑦日先研会員か非会員か

